見る方が分かる、それとも、聞く方が分かる？

人には、得意なこと不得意なことがあります。そのうちの一つに、見る方が得意なのか聞く方が得意なのかということがあります。

何度言っても、丁寧に説明してもなかなか分かってくれない。でも、図に示して見せてあげるとすぐに分かる子がいます。逆に、分かりやすくまとめて、見れば分かるものを準備しても、なかなか見てくれない。説明してあげながら一緒にやってみるとすぐに分かってくれる。

一つ目の例では、耳から入ってくる聴覚情報より、目から入ってくる視覚情報の方が自分の中に取り入れやすい子と言えるでしょう。このような子は、本を読んでいるときに話しかけても気付かない場合があります。例えば、「本を読むことをやめて話を聞いて。」と言っても、気付かない場合です。「〇〇さん、本を読むことをやめて話を聞いて。」と、名前を呼んでからしてほしいことを伝えると聞いてくれることがあります。それでも気付かないときは、そっと手を背中や肩に添えてから「本を読むことをやめて話を聞いて。」と言ったり、本を読んでいる視線の中に見えるように手や顔を見せてから「本を読むことをやめて話を聞いて。」と言ったりすると、すぐに気付いて、本を読むことをやめるでしょう。ただ、読んでいる内容に夢中になっている時には、もう少し読みたいとやめないときもあります。その時には、しおりや付箋で読んでいるページにしるしをつけてあげて、「次はここから読もうね。」と伝えると、本を読むことをやめることができることが多くなります。

二つ目の例では、一つ目とは逆に、視覚情報より聴覚情報の方が自分の中に取り入れやすい子です。様々な事例があります。例えば、教科書の文字やプリントの文字などを一行ずつ読んでいこうとしても、隣の行の文字と入り混じって見えたり、行間は白紙のはずが、何本かの波線が見えて、文字が躍るように見えたりします。このような場合には、デジタル教科書の本読みをイヤホンで聞いたり、本人に代わって誰かが読んであげたりするとよいと思います。テストをする時にも、テストの問題文を読んであげる等の支援をしてあげないと、その子が本来もっている力は分からないかもしれません。

お子さんは、どちらでしょうか。両方とも得意だという子もいるでしょう。でも、もし困るようなことがあった場合、上記のようなこともあるかもしれないと、参考にしていただけるとよいと思います。